



公益財団法人 鳥取県国際交流財団

Tottori Prefectural International Exchange Foundation  
公益財団法人鳥取県国際交流財団

# とっとり国際通信

TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN / 鳥取国際通讯

No. **116**  
Dec. 2015



写真 「設立25周年記念 国際交流・多文化共生推進功労者表彰の様子」  
25-Year Commemorative Recognition of Distinguished Service in International Exchange and Multicultural Unity  
设立25周年纪念 国际交流・多文化共生推进功労者表彰的情况

## 目次 Contents 目录

TPIEFだより

「鳥取県国際交流財団は今年で設立25周年」 02・03

特集

「平成27年度 鳥取県海外研修員・県費留学生の紹介」 04・05

海外レポート 06

・スポーツを通して私ができること、目指すこと

JICAデスクよりお知らせ 07

・青年海外協力隊は発足50周年を迎えました!

英語版・中国語版ダイジェスト

08・09

Information in English and Chinese

・TPIEF Bulletin

「TPIEF Turns 25 This Year」

・Feature

「2015 Overseas Trainees and Prefecturally-Sponsored Exchange Students」

英文版・中文版文摘

・TPIEF 信息

「鳥取県国際交流財団今年が創立25周年」

・特集

「平成27年度海外研修員・県費留学生の紹介」

図書情報等

10



# 鳥取県国際交流財団は今年で設立25周年

当財団は、鳥取県における国際交流推進の基盤づくりと国際交流活動を行うため、県民・民間団体・行政が一体となった中核的な国際交流推進組織として平成2年に設立され、今年で25周年を迎えました。



平成 2(1990)年11月1日	財団法人鳥取県国際交流財団 設立
平成10(1998)年 4月	米子事務所 開所
平成13(2001)年 5月	倉吉事務所 開所
平成23(2011)年 4月1日	公益財団法人鳥取県国際交流財団(公益財団法人への移行認定を受ける)

## 設立25周年記念事業

# 「多文化共生まちづくりフォーラム」を開催しました!

## 国際交流・多文化共生推進功労者 表彰

### ■ 団体

- ・タイム(とっとり国際交流連絡会)
- ・鳥取県西部地区日韓親善協会
- ・鳥取ブラジル会
- ・米子国際交流協会



25年以上の永きにわたり国際交流及び多文化共生の活動を積極的に行うとともに、地域の国際交流の牽引役やネットワークの要となり、その功績が顕著と認められる団体に表彰状が贈呈されました。

### ■ 個人

- 森田 百合子さん 横山 裕美子さん 尾崎 かおるさん 松本 真美さん 和田 史世さん
- 西土井 京子さん ケイツ佳壽子さん 鈴木 京花さん 土井 智子さん 足立 飛雪さん
- 遠藤 百合さん 吉田 淑子さん 門脇ビルジニアさん

専門通訳(医療・コミュニティ)ボランティアとして制度創設時(医療通訳:平成21年度～、コミュニティ通訳:平成24年度～)より登録し継続的に協力するなど、財団事業に多大な貢献を行い、その功績が顕著であると認められる個人の方々に表彰状が贈呈されました。

## 各受賞者からのコメント



**タイム(とっとり国際交流連絡会)**  
会長 ケイツ佳壽子 さん (1988.6 設立)

既存の交流団体をつなぐ「連絡役」!という思いでスタート。セミナーやバザーなど独自の活動を続ける会の歩みとともに東部地区でのフェスティバルも27回目を迎える。これからも手を携えながら進んでいきたい。



**鳥取県西部地区日韓親善協会**  
会長 榊原 忍 さん (1981.4 設立)

国レベルの国際交流は難しいことも多いが、民間はしっかりと繋がっている。これからも地道な交流を続けていきたい。



**鳥取ブラジル会**  
会長 西原 昌彦 さん (1983.3 設立)

ブラジル県人会も二世以降の若い世代になり日本語による交流が難しくなっているが、母県である鳥取とブラジルとを繋ぐ役割をこれからも果たしていきたい。



**米子国際交流協会**  
会長 中井 大造 さん (事務局長 川端恵美子さん 代理出席) (1989.1 設立)

13人の登録者でスタートして早30年近い年月がたった。交流という何かしてあげるということになりがちだが、双方向での交流を意識している。組織に属さない傾向が増える中で時流にあったスタイルでこれからも活動していきたい。



### 個人受賞者を代表して

来日して17年、石の上にも3年という文化や言葉に自信がもてるようになるまで5年かかった。そんな時期、困ったときに助けられたことに報いたいという思いで財団の専門通訳ボランティアに登録し

### 鈴木 京花 さん(倉吉市在住)

活動している。これから2020年のオリンピックにむけて医療をはじめ様々な分野で通訳の存在はますます重要になってくる。「言葉の救急車」になれるようこれからも一層の研鑽を積んでいきたい。



基調講演

# 「地域の未来とまちづくり～多文化共生社会がもたらすもの～」

講師／特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪 代表理事 田村 太郎氏

**多**文化共生と誰もが暮らしやすい社会というのは、もう切っても切れない話だと思ってください。鳥取でできることはたくさんあります。それをやらなければもう鳥取に未来はない、もう5年後、10年後の鳥取はないという気持ちで、誰もが暮らしやすい社会に向けて何ができるのかを是非考えていただきたい。アジアに目を向けても、韓国、中国の自治体は法律や条例を整えてかなり力を入れてやっています。いわゆるニューカマーにやさしい施策をしっかりとすることは必須の施策になっています。やらない地域には人が来ないどころか、その地域の人たちも他の地域に移って行ってしまいうということ。鳥取の人口変動データをみても、高齢者、亡くなる方の数のほうが多いということだけではなくて、社会減、鳥取から転出してしまふ人が多いということです。こういう状況で、本当に誰もが暮らしやすい社会をつくるということは自治体施策の真ん中に置かないといけないことだし、鳥取県挙げて多文化共生をやるということに真剣にならないといけない。鳥取の未来をかけてやるべきことだと思います。多文化共生のまちづくりというのは、日本に来ていろいろ困っている外国人を助けることだと思われるかもしれませんが、そうではありません。現在、在住外国人の半数を超える永住外国人をいかに地域の経済や人的資源として活性化に取り込んでいくか、そういった人たちが担い

手となつてもものづくりや情報発信をしていく、日本にそして鳥取にせっかく違う文化背景を持つ人がいるのであればその人たちと一緒に未来を築いていく、これが多文化共生です。長期に鳥取に暮らしてくれる外国人を増やすためにも、日本語習得や多言語・異文化対応ができる人材をしっかりと育てていくことが重要ではないでしょうか。そしてこの取り組みを進めていくときに一番ポイントになるのは、多くの県民・市民の理解です。外国人の方々のために何か一生懸命やっているのかもしれないという認識ではなく、地域の未来のためにやっているのだという認識をもってもらえるかどうか、鳥取がそこその活力を持ちながら生き残っていく非常に大きなポイントではないかと考えます。



▲ 講演のようす

## 座談会

基調講演に続いて、田村講師をアドバイザー、鳥取大学地域学部教授 仲野 誠さんを進行役、3名の外国出身者を話題提供者に、フロアの参加者の皆さんと一緒に多文化共生のまちづくりについて話し合う座談会を開催しました。インドネシア出身のイニョマン・アドニャナさんからはPTAのスポーツ活動をきっかけに友人をつくり世界を拓げていったこと、フィリピン出身の寺坂ジーンさんからは老人施設の介護職員としてやりがいをもって働いていること、中国出身の胡丹さんからは中国人コミュニティを軸にして地域のお年寄りとの交流や子どもたちに中国の文化を伝えながら交流する青少年中国文化交流教室に取り組んでいることについて、それぞれの経験などを話していただき、その話題を糸口に参加者からもさまざまな意見が飛び交いました。

最後は、田村講師が、日本人だから、外国人だからというのではなく、この地域を何とか一緒にやっつけようよとオープンな気持ちになれるかどうか重要で、意外と日本の地域社会はそれができている事例がたくさんある、出会いがあれば乗り越えられと締めくくられました。



▲ 座談会のようす

## 多文化共生まちづくりフォーラムは、中部・西部でも開催!

中部・西部では、地域の外国出身者によるパネルディスカッションを予定しています。

### 中部開催

日時 平成28年 1月24日(日) 13:30～16:15(予定)  
会場 伯耆しあわせの郷 (倉吉市小田458)

### 西部開催

日時 平成28年 1月31日(日) 13:30～16:15(予定)  
会場 米子コンベンションセンター (米子市末広町294)

# 平成27年度鳥取県海外研修員、 県費留学生の紹介

鳥取県は交流している国や地域から、毎年、専門機関で研修する研修員と、  
県内の大学で専門分野を学ぶ留学生を受け入れています。



鳥取県・韓国江原道職員相互派遣事業研修員

シン ウンギョン 韓国/  
**申 恩京** さん 江原道出身

私は、江原道の獣医職公務員として、鳥取県の家畜保健衛生所と似た家畜衛生試験所というところで病性鑑定を担当しています。仕事の内容は、疾病のある家畜を剖検し、細菌、ウイルスなどの病原体検査や組織検査などの結果から病気の原因が何であるか特定することです。特に日本では発生していない牛や犬の狂犬病検査が専門です。

韓国では口蹄疫とA1(鳥インフルエンザ)が発生する忙しい時期に、私が日本へ研修に来た理由は、疾病発生により萎縮した江原道内の畜産業のために、先進国である日本の獣医および畜産現場の研修を通して関連業務をベンチマーキングすることでした。そして私個人としても自分の力量を向上させたいと考えたからです。

この機会を通じて日本の先進技術をたくさん学び、韓国の畜産現場に少しでも反映できるよう努力したいと思います。



自治体職員協力交流研修員

サイ コウレン 中国/  
**崔 紅蓮** さん 吉林省琿春市出身

中国では、琿春辺境経済合作区科学技術局に勤めています。大学で日本語を専攻しましたが、専門とは関係ない仕事をずっとしていたので残念に思っていました。ちょうどその頃に今年日本研修の機会があり、希望して日本に来ました。

来日したばかりのときは日本語が上手く話せず悩みましたが、滋賀県のJIAM(全国市町村国際文化研究所)で一か月の日本語研修を受け、少しずつ日常会話ができるようになりました。今は日本の生活にも慣れて毎日楽しく過ごしています。県庁で、観光、物流などの分野の研修を受けています。鳥取の観光地や物産品に誇りを持って、宣伝に全力を尽くしている姿に感動しています。

帰国後は、日本で学んだ経験と知識を仕事に生かし、鳥取と琿春の交流事業に貢献したいと思います。



鳥取県ブラジル海外研修員

**アドリアーナ・ユミ・ミヤモト** さん  
ブラジル/サンパウロ市出身

私は、祖母が三朝町出身の日系3世です。ブラジルのカンピナス公立大学でソーシャルコミュニケーションメディアロジーを専攻し、去年サンパウロ公立大学でマーケティングとコミュニケーションのスペシャリゼーションを専攻し、卒業しました。

私にとって今回の来日は初めてのアジアとなりました。日本の文化、生活、食生活、芸術はブラジルと大きく違います。日本の古い伝統に対し、ブラジルはまだ新しいので、日本の歴史にとっても興味があります。ぜひ日本文化と生活を学びたいです。

鳥取滞在中は、祖母のふるさとへ行って墓参りしたり、三朝町を歩いてみたいと思っています。それから日本人の友達をたくさん作って日本での生活を楽みたいです。研修では専門分野をもっと勉強したいと思います。



鳥取県ブラジル交流促進事業県費留学生

**レチッシア・アイミ・オハラ** さん  
ブラジル/サンパウロ市出身

私は日系3世で、祖父は鳥取市の出身です。サンパウロでは経営を学びました。現在は鳥取大学で日本語と経営を勉強しています。鳥取に来られて嬉しいです。

鳥取市とサンパウロ市は大きく違います。サンパウロは大きい町なので少し危ないのです。でも町はきれいで面白い町だとも思います。サンパウロには、ブラジル最大の日本人会がありますが、そこでの生活というのも、実際の日本の生活とは“しきたり”が違います。ただ私自身は、日本人と話していると、自分が日本人と似ているなど思うことが時々あるように感じます。

日本では既に今まで経験したことのないことをたくさん経験しました。富士山に登ったり、しゃんしゃん祭りで踊ったり、有名な食べものを食べたりしました。これらは、忘れることのできない経験です。日本の文化も少しずつ知ることができていますが、更にもっと知りたいです。

# 私たちの“ふるさと”は、こんなところですよ!!

研修員・留学生の皆さんに“ふるさと”を紹介してもらいました!



## 申恩京さんによる 韓国・江原道はこんなところ!

【自然が豊かな地域】「雪岳山」をはじめ、有名な山がたくさんあります。特に秋の紅葉は美しく有名です。穏やかな海岸線の東海岸には「鏡浦海水浴場」や、世界一駅から海が近い「正東津」といった観光地もあります。夏になると韓国中から多くの観光客が訪れ、海水浴を楽しんだりします。冬は降雪量が多く、大きなスキー場や素敵なリゾートエリアは賑わっています。2018年には平昌、江陵、旌善で冬季五輪が開催されます。このほかにも、冬のソナタの撮影地として有名な南怡島がある「春川」、松茸と鮭が有名な「襄陽」、江原道最大都市である「原州」など、江原道は有名な都市がたくさんあるところですよ!

【コーヒーのまち】食べものでは、春川のタッカルビ、日本のそばと似ているマククスが有名です。東草の冷製刺身スープやイカ、江陵の韓菓、原州のドジョウ汁などもよく知られています。江原道全地域のどこでも食べられるおすすめといえは豆腐料理と山菜料理ですね。それから、江原道はコーヒー好き地域です! スナバはありませんが、スタバは13ヵ所もあります。最近ではコーヒーの町として「江陵」がコーヒーフェスティバルを開催していますよ!



## 崔紅蓮さんによる 中国・琿春市はこんなところ!

琿春市は、その位置から北東アジアの中国、日本、ロシア、韓国、北朝鮮、モンゴルの6カ国が関心を持ち、開発している地方経済協力地域です。夏は涼しく、冬は暖かくて住むのに適した土地です。空気がとてもきれいで、一年中ずっと青い空が見られます。ロシアや北朝鮮との国際貿易が日増しに活発になり、貿易規模は拡大しつつあります。特にロシアとの自由貿易活動が頻繁で、市内には家を買って住むロシア人も多くいます。国家級の風景名勝地としては、吉林八景のひとつである「一目望三国」、そして「砂丘公園」、「ハス湖公園」があります。

人口は25万人。漢族、朝鮮族、回族など11の民族が住んでいますが、朝鮮族が約半分を占めています。中国国内でも朝鮮族が最も多く住んでいるところであることから、生活と飲食文化は韓国と似ています。韓国料理が好きな人にとっては、韓国に行かなくても韓国料理を堪能することができそうです。羊肉や牛肉の串焼きも最高においしいですよ!



## ミヤモトさん、オハラさんによる ブラジル・サンパウロ市はこんなところ!

ブラジルは南北に長く日本よりも大きい国です。人口も多いので、どこへ行っても異文化を感じることができます。そしてサンパウロ市はコスモポリタンな町。24時間を通してすべての場所が楽しくて面白いんですよ! 【サンパウロ美術館】(ミヤモトさん) 私が一番大好きな有名な場所は「サンパウロ美術館(「マスビ」の愛称で知られている)」です。中世から現代までの西洋美術の名品を数多く収蔵しています。その中でも私が大好きな彫刻作品はエドガー・ドガのバレリーナです。いつ見ても気持ちがいいです。 【ブラジルならではの食べもの】サンパウロ市はとて

大きな町なので、有名な料理を絞るのは難しいですが、ブラジルの代表的な料理といえばフェイジョアードです。豚肉と黒い豆で作る、とても美味しい料理です。(オハラさん) サンパウロには名物サンドイッチもありますよ! このほか、最近日本でもよく食べられているアサイーもあります。また、パステウ、ポンデケージョ、ブリガデイロといったブラジルならではの美味しい軽食やスイーツがたくさんあります!



フェイジョアード ▶

